

特103

160

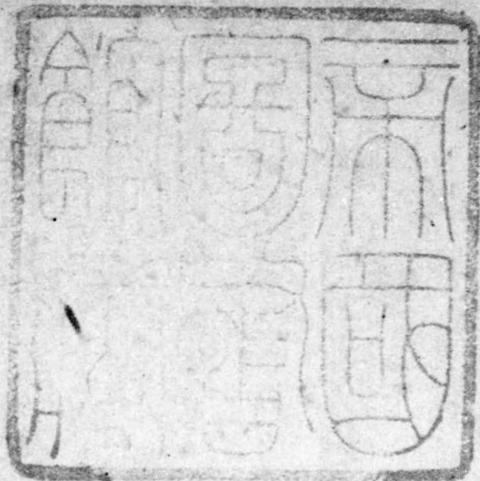
大 師 の 御 功 績



始



特103
160



目 次

理想的偉人	文藝上の御功績	開拓上の御功績	産業上の御功績	思想善導上の御功績	宗教改造上の御功績	感化救済上の御功績	日本國民の大恩人
-------	---------	---------	---------	-----------	-----------	-----------	----------

大正
10.6.10
寄贈

連生堂寄贈本

大師の御功績

蓮生觀善著

理性的偉人

弘法大師は私等人類の知識を以て測り得られる範圍に於て、最も完全にして、最も圓滿なる理想的偉人であり、かゝる偉人を追懐して欣仰して憧憬するといふことは、私等の精神を修養する上に於てその得る所が多からうと思ひます。

私等は生れながらにして偉人を崇信する天性を以て居ります。故に偉人の言行や事蹟や風采を思ひ浮べて、その人と一緒に暮して居るやうな美しい心がけを持つことは非常な幸福であります。人生を楽しく暮さんとするには偉人なる人格の光明に包まれる様力めなければなりません。大師を信ずる人は其の信ずることの深ければ深いだけ喜びと楽しみを深く感ぜられます。又未だ大師の偉大なる徳光に觸れない人も大師の事蹟を知り大師の人格

を研究することによりて次第にその光明に照され心の饑えを醫し精神の怡悦を感ずることが出来るやうになります。

併し大師の偉大なる人格や事績は何にほど書いても私共の拙き筆には逆も書き盡せやうとは思ひませぬ、そこで今は只だ面影の片影のみを大略御紹介するに留めようと思ひます

文藝上の御功績

大師は社會文化の爲めに種々御盡しになりました。大師が「いろは」を作り、又「五十音」を作られたことは皆さん能く御存知でありませうが、學校を建て國民教育の爲にお盡しになつたといふことはまだ御存知ない人があるかも知れない、大師が京都に綜藝種智院といふ學校を建てられたことは我邦教育史上の重大なる事項であります、日本に於ける教育上の第一功績者は誰れであるかといへば、弘法大師であるといふことは其道専門家の間にも異論のない所で、その教授科目は儒教、道教、佛教の三教に亘り當時にありて最も新しい教育を施されたのである、その教科書としては實語教、文鏡秘府論など種々の書物を作られ

てあります。

又書道についても今日現に大師流といふ書風があつて日本の書道は直接間接に大師の書風に關係を有つて居らぬものはないといつてよい位で、小野道風や菅原道真なども大師の書風を學び傳へた御弟子分であります、筆の持ち方、字の書き方、執筆使筆、書法筆法を正式に日本に傳へられたのは弘法大師であります。

それから又大師は繪畫彫刻に靈腕妙手を有せられ、現に國寶になつて居るものが澤山あります、彫刻で名高いのは高野山の波切不動尊、高雄山の藥師如來等であり、繪畫で有名なのは東寺の七祖像、普門院の勸操僧正像等であります、大師の繪畫彫刻は平安朝の代表的作品として千萬金にも替へ難い貴いものであります。

開拓上の御功績

大師は開拓事業にも非常に御盡力になりました。大師は青年の頃より山水を跋渉し、深山を探險することが好きで、何時もじつとして居られない位に東西南北に錫を飛ばされま

した、これ一は心身を鍛錬する爲めに、又一は深山開拓の爲めに、或は阿波の大龍の嶽とか、土佐の室戸の崎とか、伊豫の石鎚山とか、或は高野山とかへ攀ち登りて其處に閉籠つて修行せられたのである、西は九州より東は奥州の端まで日本の深山大澤にして大師の足跡を印せない所は殆どないと申してもよい位であります。

そしてそれらの高山は何れも人跡絶えたる恐しい猛獸毒蛇の棲家でありました。そういふ所へ錫杖一本で只だ一人分け登らうといふには命がけの大信念がなくては逆も登れる譯のものではありません。高野山には蛇柳といふ舊跡がある、それは大師が大蛇を退治せられた所だと申すことであります、四國の島も今日こそ大分開けて居りますが、千年以前の四國は臺灣の山奥よりもつと物騒であつたらうと思はれる。その人煙稀れな寂しい危険を冒して大師は開拓に力め、八十八ヶの靈場を開かれたのであります、四國靈場を巡拜した人は御存知でありませうが、深い谷や高い山や今でも随分怖しい所が多い、毒蛇を退治せられた穴だとか、猛獸を退治せられた所だとか、或は妖魔を退散せしめられた所だとか、さういふ遺跡が澤山ある、四國の島が今日の如く開けたのは全く大師のおかげであります。

但し開拓といつても大師が自ら鋤鋤を執つて土を掘り工事に従事せられた譯ではありません、が、世の人が怖れ戦いて近寄らない山の奥や森の中へ分け入りて七日間或は三七日間若くは百日間の祈禱を凝らし、其處へ佛像を祭り寺を建て道を開き橋を架け、以て恐るゝに足らないことをお示しになる、それを見て今まで恐れて居た人々も心を安んじて段々そこへ近寄つてくるやうになり、遂に次第に人家が建ち並び村落ができ市街ができるやうになつたのであります。

産業上の御功績

弘法大師は殖産興業にも種々の御關係を有つて居られます、先づ農業の方面について申しますと長崎の香焼島には麥蒔大師といふ御堂がある、それは大師が唐より御歸朝の砌りその傳へ來れる麥を始めてそこに蒔かれたといふのであります、四國靈場第一番の奥院にも種蒔大師といふ御堂がある、又大師は農業に必要な池をあちらこちらに築かれました、讚岐の萬濃の池とか、大和の益田の池とかゞそれであり、又水脈を教へて所々に井戸を掘ら

せたことも数限りない程澤山あります、その一二をいへば太宰府の弘法水、檳尾山の智恵水、宇治の大師井戸、屋島の加持水等の如きにして、それが飲料水として灌漑用として今に多くの人を益して居ることは申迄もありません。それから空豆も大師が唐より傳へてこられたのだといふことであり、又農具などもその頃唐土より傳へられたのが今に段々使用されて居る。唐箕、唐鋏、唐臼などがそれであり、次に商工業の方面について申しますと我邦輸出品中の重要な彼の茶は大師が唐より傳へて來られたのであります、その證據は嵯峨天皇御製の詩、室生山の茶白及茶園縁起等に依て明かであります。次に彼の石炭も大師が始めて發見せられたのであります。温泉も大師が弘められたので北里醫學博士なども「弘法大師と温泉」と題しその事を詳論せられてあります。又菓子も大師が唐より傳へて來られたので、大師は小倉の和郎にその製法を傳へ、小倉の和郎は菓子司の元祖として今に小倉の里に和郎明神と祭られて居ります、此外製墨、製筆及び大師染めの染料發明等産業上各種の方面に多大の功績を遺されてあります。

思想善導上の御功績

弘法大師は國民精神の指導に就て甚深の注意を拂はれました。大師のお生れになりました時代は丁度大正の今日と同様國民一般の思想が安定を缺いて居る時代でありました。第一には敬神思想と奉佛思想の暗闘が聖徳太子以來まだ徹底的に解決が出來ずに居りました。第二には孔子の教へと老子の教へと釋尊の教へとが、盛んに暗闘を致して居りました。第三には佛教各宗派が各々異なる主張と意見を戦はして居りました。是等の種々の思想が紛糾して當時の人心は動搖を極めて居りました。大師は此の状態を見て少からず心配せられ、之れが指導の方針に付て大に苦心をせられました、そして先づ第一に敬神と奉佛の二大思潮を調和する爲に兩部神道を主張せられました、兩部神道といふは嵯峨天皇と弘法大師とが宮中に於て一ヶ月餘りも御研究になりました結果、眞言宗の兩部の秘旨と吾國神道の奥義とは符節を合するが如く一致に歸するものであるといふことが明白になりましたので、嵯峨天皇と大師は力を協はして此説を宣傳し

神佛融合の思想を鼓吹せられたのであります。欽明天皇以來さしもに行き惱んで居りました神佛問題も茲に圓滿の解決を見ることが出来、諸國の神社には皆な別當寺を建て社僧を置き神明に法樂を捧げて萬民豊樂の祈禱を爲し日本國を擧げて眞言宗化せしむるに至りました。第二の儒老佛三教の論争に對しては三教指歸といへる三卷の書を著はして一々明快なる批判を下し、孔子老子は儒童加葉の二菩薩の權化にして三教は抗争すべきものでなく和協提携すべきものであるとの斷案を下され、第三の佛教各宗の争議に對しては鎮護國家主義を主張して各宗は共に國家の御爲め皇室の御爲め、萬民豊樂の爲めに堤携努力すべきであるといふことを主張せられました。

こゝに於て奈良朝以來低迷決せざりし國民思想の低氣壓は漸次吹き拂はれて晴朗なる天日を見る様になりました、これ一つは嵯峨天皇の甚大なる御力添へに依ることは申迄もありませんが、又一つには大師の偉大なる人格の力と穩健にして妥當なる御主張とに依る次第と存じます。

宗教改造上の御功績

弘法大師は宗教上の教理並に制度に種々の改造を行はれました。その主なる點を申しますれば大師以前の宗教は支那より傳來した儘のものにて教義も儀式も日本の民心性情に融合して居りませんでした。大師は此の點に對して佛教の日本化せねばならぬ所以を大に唱道せらるゝと共に自ら先づ日本の民心に適合すべき新宗教を開立せられました(是一)。大師以前の宗教は造佛寫教やお經の講釋などの如き形骸のみに囚はれて居りましたが大師はそれに對して神秘主義を加味し、加持祈禱の一面を開き、直接に信仰の靈氣に觸れしむべく改造を行はれました、その素意は吾日本國民の宗教思想は自然崇拜と祖先崇敬の合一によりてその基礎を築かれて居りますから佛陀善神は國土人民の擁護者であるとの觀念を土下の間に鼓吹し一般民衆の信仰に適合せしむるの必要を認められたからであります(是二)。又大師以前の宗教は隱遁的にして樹下石上に座し寒灰枯木の如く、丸切り活人生とかけ離れて居りました、大師はその誤れることを指摘して社會人生と密接なる關係を結ばしむべ

く改造せられました(是三)。大師以前の宗教は唯識唯心とか一念三千とか申して兎角主觀主義に片寄り内面生活に耽溺するの傾きがありましたので、大師はそれに對して現實主義を基礎とせる即事而眞説を主張せられました、(是四)。大師以前の宗教は厭世主義にして隔生成佛を信じて居りました。大師はそれに對して此世ですぐ即身成佛ができる説き、此の世を直に密嚴淨土にすることができると主張せられました、(是五)。

如上の改造意見は單に大師の開かれた眞言宗の上に適用せられた許りでなく、大師以前に開かれたる南都各宗は、著しく眞言宗的色彩を帯ぶるやうになりました。又大師以後に開かれました禪宗、日蓮宗、淨土眞宗等の上にも大なる影響を及ぼしましたることは、その祖師方が高野山に登りて研究修行を積まれたことや、その教義信仰の上に或は即身成佛を説き或は十界曼荼羅を説き、或は王法爲本を説ける等によりても其影響のほどが窺ひ知られようと思ひます。大師の宗教改造意見は此くの如くにして日本佛教各宗の間に着々實現せられたのであります。

感化救済上の御功績

弘法大師は慈みの深い情けの厚い温和なるお方にて、一度會へば親愛の情に包まれるやうな御性格でありました、それと同時に一面には烈々たる信念と卓抜高邁の達識を有して居られたのであります。そこで延暦の末の年に勅命を含んで彼の土に入唐し大陸文明の精を摘み萃を抜きて歸朝せらるゝや朝野の欽仰は眞に高山深水も啻ならぬ有様にて、恰も衆星の北辰に向ふが如く、道俗その風を仰ぎ、上下その影を望み、居れば門前市を爲し、出づれば追従雲の如く、一世を擧げて大師に歸嚮するの有様でありました。

大師生前の感化が如何に盛大絶倫なりしかは、皇太子高岳親王が剃髮して大師の御弟子となり、嵯峨天皇淳和天皇が師弟の禮を以て大師に灌頂を受けさせられ、又傳教大師、勤操大徳等の如き高僧碩徳が續々大師の門に來りて灌頂を受けられたるを見ても其の一端を知ることゝできやうと思ひます。大師は彼様に上流社會の教化に努められた許りでなく下層社會の傳道にも亦大に努力せられたのであります。彼の四國靈場の開創を始めとして近畿

中國其他の僻陬に至るまで殆ど寧日なきまでに東西に羽を飛ばして普く法輪を轉せられたのであります。

次に入定後の感化はどうかといふに其の御徳は一層擴大せられて遂に大師は人間以上の御方として神佛と同様に尊信せらるゝやうになりました、彼の四國順拜の人々が一面には大師の現罰を恐るゝこと世の子女が嚴父に對するが如く、又一面には大師の恩徳を仰ぎ慕ふこと世の子女が慈母に對するが如くなるものあるは之れ大師の靈徳が千有餘年の今日尙人心感化の上に活きて働ける閃證ではありますまいか。大師の廣大なる御誓願は十方に救ひの手を伸べて惱めるものも、苦めるものも、病めるものも、悶ゆるものも、漏さず救済して下さるのであります、四國参り、高野詣り、大師の御名に縋るものは皆願望を叶へさせて下さるのであります、心に憂へあるもの、身に病あるもの、目の見へざるもの、足の立たざるものは皆な大師によりて救はれます、親子兄弟にも疎んせられ世の人々にも思ひ嫌はるゝ天刑病者も大師に依りてのみ効はり慰められるのであります。さればにや在々所々に新四國を設け大師講を組織し二世の利益を祈り大師の誓願に縋るもの日に月に増加しつ

つあるは偏へに之れ大師靈徳の然らしむる所であります。

日本國民の大恩人

弘法大師は不出世の大英才にして、極めて健全明晰なる頭腦を有せられ、あらゆる智識を受け入れて根本的に研鑽し其の奥秘を窮めなければ止まないといふ御性格でありました。それであるから書道にしても、文章にしても、繪畫彫刻にしても亦建築學にしても、音樂にしても何れも開祖たるの地位を占め、その我國文化の發達に多大なる貢獻を爲し、その影響は今日に至るまで連綿として史學上に美術上に特殊の材料を供給せられて居ります。併し大師の御本意よりいへばこれ一個の餘技にして傳道上の一方便として用ゐられたるに過ぎないのである、けれど社會國家の方面より云へば決して等閑に附すべからざる不朽の大偉績であるといはねばなりません、日本の文化は大師によりて開拓せられ大師によりて大成せられたと申しても決して過稱であるまいと思ひます。

特に「いろは」歌の御製作の如き實に我國文化の上に重大なる關係を有し、文明先進國に對

しても大和民族の大に誇るに足る所のものでもあります、世界各国にも種々の字母はあれど、我が「いろは」のやうに字母そのものに高尚深遠の眞理を含むて居るものはどこにもありません。殊にその「いろは」四十七字は能く我が日本人の音聲口の數に合し、且つそれが自然に優美なる讚歌となつて居るといふに至つては眞に大師の天才巧手に驚歎するの外はありませぬ。吾等日本國民が大師に負ふ所の高恩は眞に海岳も喩へではないのであります。大師の御徳は太陽の光線の如く皆なの氣付かない所に無限の恩恵を施されて居るのであります。

大正九年四月五日印刷
大正九年四月十日改訂再版發行

編輯者 飯田俊正
印刷者 湯淺喜三郎
印刷所 合資商報會社
京都市柳馬場通二條下ル等持寺町

發行所 和歌山縣高野山 振替大阪四〇〇七五番 修道社



終

